

## 特集：カンピロバクター食中毒と薬剤耐性

### Symposium : Food Poisoning Caused by *Campylobacter* and Antibiotic Resistance

#### 今回のシンポジウムにあたって

小久江栄一（動物用抗菌剤研究会 理事長）

例年秋になると、次年度の動物用抗菌剤研究会シンポジウムにどんなテーマをとり挙げようかの相談で、何名かの理事の先生方が日獣大に集まる。総会に集まっていた方々を満足させるテーマを見つけなくてはならない。いつも苦労するのだが、今回はかなりすんなりと「リスクアセスメント」と「カンピロバクター」という二つのキーワードが決まった。鶏に使うフルオロキノロン由来のカンピロバクター耐性菌問題が、いろいろな学術誌や新聞紙上ににぎわせていたことが原因であろう。またその集まりの何ヶ月か前に、ある理事の先生らもカンピロバクター中毒らしき症状を体験したという話しもインパクトを与えた。そしてすぐに、カンピロバクターの生態や汚染実態、薬剤耐性や感受性試験法などのサブテーマが決まり、お話していただく講師の人選も出来た。

またその席では、リスクアセスメントについても話しが多く出た。その頃は丁度、BSE問題の影響でリスク評価という用語がさかんに一般新聞誌にも出ていた。実はこの分野は日本が最も不得手とするサイエンスである事を、私を始めお集まりの先生方も感じておられた。少し勉強しなければならぬね、ということでこれを特別講演のテーマに決めた。この10月初めのVICH会議で、リスクアセスメントの量的査定というセンセーショナルな講演があったし、その前9月には、FDAから動物用抗菌薬由来耐性菌がもたらす公衆衛生学的危険度の質的査定の草案が出された。今にして思えば、我々の企画はタイムリーだったなという感想を持つ。本研究会先生方の、日頃のご努力の成果であろう。誇りに思います。